

火遊び編

子供たちは大人の行動に興味を持つものです。花火をしているときやたばこを吸うときのライターやマッチなどで火をつける動作など、大人が気付かないうちに子供たちはたくさんすることに興味を示しています。

ライターやマッチで火をつけることは、小さな子供でも行うことができますが、『火がついたら、どうなるか』という認識はありません。

子供が火遊びをしてしまうのは、親や近くの大人の責任です。

< 火遊びによる火災の特徴 >

大人がいないときや人目につきにくい場所で発生し、発見が遅れ初期消火が困難になることが多い。



< 予防対策 >

▼ 火遊びをさせないために

- ライターやマッチを子供の手の届くところに置かない。
- 幼い子供だけを置いて外出しない。
- 子供だけのときは、ストーブ等をつけたままにしない。
- 火遊びやたき火をしているところを見たら、注意してやめさせ、保護者に連絡して再発防止を図る。
- 子供たちだけで花火をさせない。
- 空地や空家の管理者に立入禁止及び施錠管理の徹底を依頼する。

▼ 防火教育

- 家庭や学校で火の大切さと恐ろしさを教える。
- 子供が火に興味を示したら、火遊びの危険性を教える。
- 火事のニュースを利用して、火事の恐ろしさと消防への通報要領や避難することを教える。
- どんなことで火事になるか教える。
- 花火やたき火を行うためのルールと、火を扱った後は必ず後始末をすることを教える。

< その他 >

火遊びで火事を発生させてしまった子供は、心に傷を負いトラウマになってしまふことがあります。

大切な子供たちは大人が守りましょう。

